

## 28. Early <sup>67</sup>Ga Scintigraphy (5時間像) の検討 第2報 RI 異常集積例の検討

東 光太郎 小林 真 上村 吉郎  
 宝田 陽 利波 久雄 浜田 重雄  
 西木 稚裕 (金医大・放)  
 表 伸一 (浅の川総合病院・放)

われわれは、Ga-67 を静注して5時間後 (early scan: E と略す。) と48時間後 (delayed Scan: D と略す。) の image を比較して、early scan の臨床的な意義について検討した。対象は、Ga-67 scan (E または D) ±RI 異常集積を認めた25例42集積 (悪性疾患13例24集積、非悪性疾患12例18集積) である。image より視覚的に、E および D の RI 異常集積の検出能の比較をおこない、さらに一部の症例において悪性疾患非悪性疾患にわけE および D の RI 異常集積の濃度の比較をおこなった。

その結果、検出能の比較に関しては、ED ともに RI 異常集積 (+) 例は35集積 (83%)、E(-)D(+) 例7集積 (17%) であり、E(+ )D(-) 例は認められなかった。つまり E より D の方が、RI 異常集積の検出能はすぐれていた。E(-)D(+) の7集積の集積部位は、すべて blood pool の多い部位 (縦隔、肺) であった。また悪性疾患と非悪性疾患との間では、E の RI 異常集積検出能に差は認められなかった。

RI 異常集積の濃度は、悪性疾患非悪性疾患ともに D>E がもっとも多かった。しかし非悪性疾患では E>D が3集積 (30%) 認められたが、悪性疾患では E>D は認められなかった。E>D の3集積はすべて胸部の炎症性疾患への集積だった。

その他、early scan は、腹部 RI 異常集積と腸管内の生理的集積との鑑別に有用であると思われた。

今後症例をふやし検討していきたい。

## 29. <sup>67</sup>Ga 集積を示した心筋炎の一症例

横山 邦彦 松田 博史 多田 明  
 油野 民雄 利波 紀久 久田 欣一  
 (金大・核)  
 名村 正伸 (同・二内)  
 鈴木 博 (鳴和病院・放)

急性心筋梗塞と並んで、cardiac emergency の重要な疾患として心筋炎があり、急性循環不全による急死の原因として挙げられる。今回ウィルス性心筋炎で、心筋に

<sup>67</sup>Ga 集積を示し、症状軽快とともに集積が消失した症例を報告した。症例は、77歳の男性。上気道炎様の感染症の経過中突然心不全状態が出現し、胸痛がなく、心雑音を聴取せず、臨床的には、心筋炎が最も考えられた。<sup>201</sup>Tl 心筋血流シンチでは、RI 分布均一で、有意の perfusion defect は認められなかった。第12病日に実施した <sup>67</sup>Ga シンチでは、心筋に一致して、著明な <sup>67</sup>Ga 集積を認めた。臨床所見と病初の <sup>201</sup>Tl シンチおよび <sup>67</sup>Ga シンチの組み合わせにより、心筋炎の臨床診断の一助になった症例と考えられる。退院直前に臨床症状が軽快した時点で、再度実施した <sup>67</sup>Ga シンチでは、心筋の <sup>67</sup>Ga 集積は、著明に減少し、ほとんど消失していた。心筋炎等の心筋疾患の RI 診断には、<sup>201</sup>Tl、<sup>99m</sup>Tc-PYP、<sup>111</sup>In 標識白血球等が用いられている。また <sup>67</sup>Ga の心集積は、心筋、心内膜、心外膜の炎症、心筋梗塞、腫瘍の心転移の検出に有用であることが報告されている。本症例のごとくウィルス性心筋炎に <sup>67</sup>Ga が集積し経過を追ってその集積が消失したとの報告は、調べ得た限りは見られなかった。しばしば、診断に苦慮する急性心筋炎が疑われた時 <sup>67</sup>Ga シンチを積極的に行うことにより診断確定の一助になり得るものと考えられる。

## 30. 非天然アミノ酸 1-Aminocyclopentan carboxylic acid の腫瘍親和性について—<sup>14</sup>C-標識化合物を用いて—

柴 和 弘 森 厚 文 (金大・RI せ)  
 久田 欣一 (同・核)

われわれは新しい腫瘍親和性物質の開発のための基礎研究として、今回、1-Aminocyclopentan carboxylic acid (ACPC)、D 型—および L 型—Leucine の腫瘍親和性について <sup>14</sup>C-標識化合物を用いて比較した。実験は、エールリツヒ癌を大腿部皮下に移植した ddY 系マウスにそれぞれ 2 μCi を尾静脈より投与し、30分、60分、120分後に屠殺し体内分布を組織燃焼法により測定した。また全身オートラジオグラムにより、視覚的な点からも比較検討を行った。その結果、腫瘍集積性および腫瘍/他臓器比ともに合成アミノ酸である ACPC が最も優れ、さらに全身オートラジオグラムによる視覚的な点からも ACPC が最も鮮明な像が得られた。また ACPC は時間的経過とともに腫瘍集積性が著しい増加傾向を示し、このことは選択的腫瘍親和性に優れていることを示唆している。